

令和2年度 第1回 市レベル地域ケア会議

1 検討テーマ「独居高齢者等への支援について」

平成30年度の市レベル地域ケア会議の議論を踏まえ、令和元年度の市レベル地域ケア会議では、以下の論点を設定し、議論しました。

【論点】

- (1) 高齢者の社会参加を促すために、どのようなきっかけづくりが必要か
- (2) 地域における多様な主体との連携を、どのように充実させていくか

<主な意見>

○独居高齢者等の社会参加を取り巻く状況

- ・元気な高齢者が参加したいと思えるような外出の場や機会・活動が、もっとあるとよい。
- ・独居高齢者を外へ連れ出してくれるサポーターの存在が大切。
- ・ボランティア活動の立ち上げにおいて、地域住民のニーズとボランティア希望者とのマッチングがうまくいかないこともある。住民の思いを活動にしていけることの難しさを感じている。

○高齢者の社会参加を促すきっかけづくり

- ・高齢の男性に地域の中で力を発揮してもらうために、地域活動への参加の動機付けになるようなアクションを起こしていかないといけない。
- ・高齢者を自宅から外へ引っ張り出す支援だけではなく、高齢者宅を交流の場にするといった「中に入っていく」発想で支援を考えてみるのもよいのではないかと。
- ・高齢者に向かう助走期間である60才代に、社会貢献に対する意識が育つと良い。特に男性は、高齢者になる前段階から意識を耕していかないといけないと思う。
- ・プロボノが企業単位で啓発されていくと、地域の中での自分の居場所を考えるきっかけにもなると思う。

■市内における民間企業等と連携した取組事例

各区では、民間企業等と連携しながら高齢者の見守り等の支援の取組を行っていますが、最近の取組事例について紹介します。

○企業と連携した普及啓発（西区）

コンビニや商店街の小売店で働く店員向けに、「お店版認知症ガイド」を配布。ガイドでは、区内のコンビニ約30店舗に認知症に関するアンケートを行った結果を踏まえ、認知症の方が来店した際の対応のポイントや、地域ケアプラザ等の相談先を紹介しており、地域の見守りに対する店員の意識醸成につながっている。

また、高齢者等が、外出時の体調の急変などの緊急時に備え本人情報を記載し携帯する「もしもカード」を普及啓発するため、企業に印刷・配布等の協力を依頼。協力企業の一覧はホームページ等で公表している。



○地域の買物困難に対するニーズへの対応（磯子区）

地域住民からの「坂が多く商店も少ないので、買物が困難」といったニーズを受け、連合自治町内会が中心となり、地域を巡回する移動販売を、地元のローソンの協力を得て実施。生鮮食品・日用品など約300種類を販売。買物の場としてだけでなく、買物に来た高齢者の買物をサポートするボランティアが活動するなど、地域の交流の場にもなっている。

※その他の市内地域でも、住民とともに地域づくりの取組としての移動販売が展開されている。

■第4期横浜市地域福祉保健計画（2019(平成31)年度～2023(令和5)年度）における多様な主体の連携の位置づけ（第2章「推進のための取組」より抜粋）

推進の柱3 幅広い市民参加の促進、多様な主体の連携・協働の推進

重点項目<柱3-2> 多様な主体の連携・協働による地域づくり

(柱3-2-1) 社会福祉法人の地域貢献の推進

社会福祉法の改正により、改めて地域福祉の担い手として期待される社会福祉法人・施設が、その特徴や専門性を発揮して地域貢献活動に取り組めるように支援します。

(柱3-2-2) 企業、NPO法人、学校等の連携強化

複雑化・多様化する地域の課題に対応するために、企業、NPO法人、学校等、地域の多様な主体が住民・住民組織と連携・協働し、それぞれの強みを最大限に破棄して取り組めるよう支援します。

2 「独居高齢者等への支援」に求められる方向性（議論のまとめ）

本会議では平成30年度から「独居高齢者への支援」を検討テーマとし、各レベル地域ケア会議（個別、包括、区）で独居高齢者への支援が検討されている状況や、独居高齢者への支援や取組例をご紹介しながら、議論を重ねてきました。（令和元年度からは、支援の方策を幅広く検討するため「独居高齢者“等”への支援」に拡大）

今回は、これまでの議論を踏まえた「独居高齢者等への支援」について、総括のご意見をいただくとともに、「独居高齢者等への支援」に求められる方向性について検討したいと考えています。

■ 社会保障審議会介護保険部会における介護保険制度見直しについて

（第89回 令和元年12月27日資料より抜粋）

介護保険制度の見直しに関する意見（案）（概要）

- ・2040年には介護サービス需要が更に増加・多様化。現役世代（担い手）の減少も顕著に
- ・高齢者を支える地域包括ケアシステムは、地域共生社会の実現に向けた中核的な基盤となり得る
⇒2025年、その先の2040年、そして、地域共生社会の実現に向けて、介護保険制度の見直しが必要

- I 介護予防・健康づくりの推進（健康寿命の延伸）
- II 保険者機能の強化（地域保健としての地域のつながり機能・マネジメント機能の強化）
- III 地域包括ケアシステムの推進（多様なニーズに対応した介護の提供・整備）
- IV 認知症施策の総合的な推進
- V 持続可能な制度の構築・介護現場の革新

I 介護予防・健康づくりの推進（健康寿命の延伸）

1 一般介護予防事業等の推進

○住民主体の通いの場の取組を一層推進

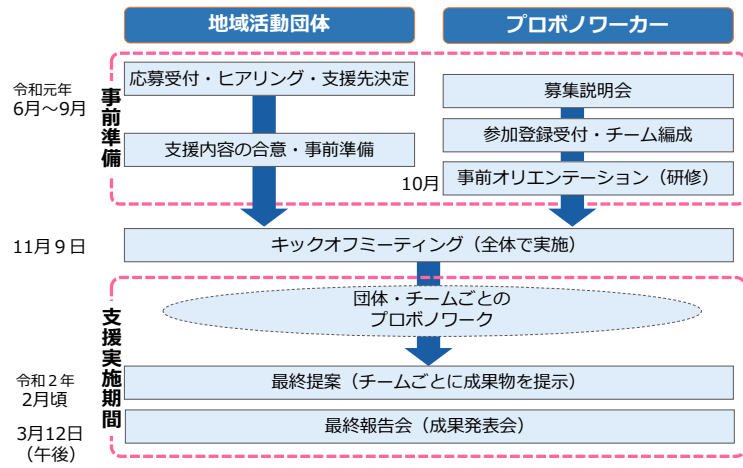
- ・通いの場の類型化
- ・ポイント付与や有償ボランティアの推進等による参加促進
- ・地域支援事業の他の事業とも連携した効果的な実施
- ・医療等専門職の効果的・効率的な関与
- ・関連データも活用したPDCAサイクルに沿った取組の推進
- ・通いの場に参加しない高齢者への対応

■プロボノによる地域活動の課題解決支援

令和元年度に「プロボノ」の仕組みを導入するためのモデル事業を実施しました。

仕事で培ったスキルや経験を有している退職後の高齢者など、潜在化している担い手の力を地域の中で積極的に活用し地域の活動につなげていくことや、仕事で培ったスキルや経験が地域活動の課題解決に取り入れられることによる地域活動の活性化を目的としています。

○プロボノ：「公共善のために」を意味するラテン語に由来する言葉で、「社会的・公共的な目的」のために、仕事で培った専門的なスキルや経験等を活かすボランティア活動を意味します。



○地域活動団体

- ・支援団体数：7団体

○プロボノワーカー（ボランティア）

- ・募集説明会参加者：60名
- ・参加登録：42名
- （年代：20代～70代）

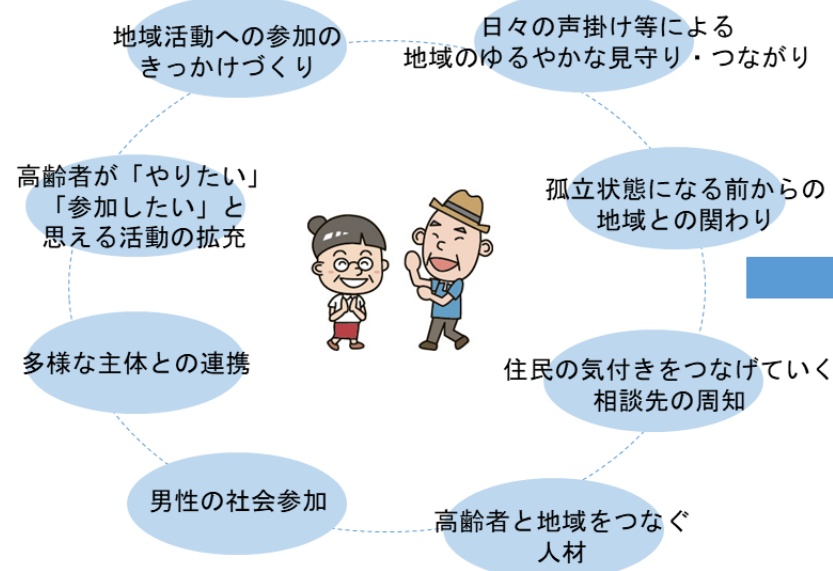
プロボノワーカー5名程度がひとつのチームとなり、地域活動団体の課題解決につながる成果物（※）を作成しました。

※成果物の例：

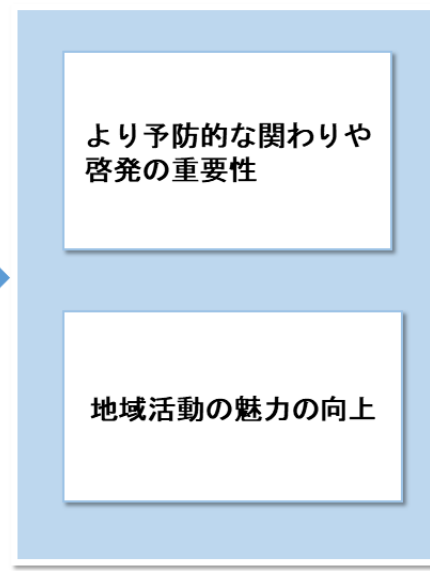
- ・ウェブサイト作成、パンフレット作成
- ・運営マニュアル作成、課題整理、マーケティング基礎調査

■「独居高齢者への支援」に対する議論の振り返り

<議論から見たキーワード>



<求められる方向性>



■「独居高齢者等への支援」議論のまとめ

独居高齢者を取りまく状況

- ・65歳以上の高齢単身世帯数・割合は、今後も増加傾向が続くことが予想されています。また、今後は85歳以上の単身世帯数の大幅増など、高齢単身世帯の高齢化が進むことも見込まれています。
- ・孤立に対する不安や困りごとを自覚し、身近な友人知人やかかりつけ医に相談している独居高齢者もいます。
- ・一方で、支援を望まない独居高齢者や認知症により在宅生活に困難がみられる独居高齢者等、地域とのつながりが希薄なまま、複合的な課題が顕在化してから初めて相談支援や地域の見守りにつながる事例もあります。

今後の施策・事業 検討の視点

地域と専門職がともに取り組む、予防的な関わりや啓発の充実が必要

- ・独居高齢者が孤立を感じることなく、安心して暮らせる地域を目指すためには、**独居になる前から地域とのつながり**が必要です。
- ・地域とのつながりをつくるためには、**高齢者になる前段階から**生活の場である「地域」に目を向け、地域活動に対する意識を育成することが、必要です。
- ・地域（住民・ボランティア）やNPO法人・社会福祉法人・企業・専門職といった**多様な主体**が、異なる視点を持ちながら、多層に**緩やかに見守る**ことが、独居高齢者が安心して暮らせる地域につながります。
- ・緩やかに見守る中で感じた「気づき」を確実につなげていく、地域の**意識の醸成**や相談を受け止める機関の**さらなる周知**が必要です。
- ・独居高齢者の生活歴、生活状況、身体状況、価値観、ニーズは様々です。「独居高齢者」で一括りにしない、**対象者別**の関わり方や支援が求められます。
- ・**新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例**にも対応した独居高齢者支援を検討していく必要があります。

住民による主体的な地域活動の充実と、高齢者が社会参加しやすい仕組みづくりが必要

- ・誰かからの声掛け等、きっかけがあれば、地域活動に参加したいと思っている高齢者がいます。「参加してみたい」「自分も手伝ってみたい」と思えるような活動が地域に存在することが、地域活動に**一歩踏み出すきっかけ**となります。
- ・高齢者が主体的に関わり、心身の状態に関わらず、居心地よく過ごせる場所・活動が地域に必要です。活動の支え手にも受け手にもなれるような、**地域の主体的な活動**（「新たに創る」、「継続を支える」、「より発展させる」）の支援が、一層求められます。
- ・地域活動を支える担い手は減少しています。潜在化している**新たな担い手の発掘**は、これからの地域活動を発展させるにあたって急務であるとともに、その人の得意なことや、思いを活かせる地域活動の広がりが求められます。
- ・担い手を発掘するうえで、**男性の社会参加**を促進するような機会や働きかけが必要です。

3 今後の対応について

「独居高齢者等への支援」について議論してきた内容や、提言に盛り込んだ内容等を踏まえて、第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画へ反映させていただきます。

【参考】令和元年度区レベル地域ケア会議の実施テーマ

鶴見	高齢者が安心して生活できる地域を作るためにできること ～生活支援体制整備事業から見た社会資源の開発や活用について～
神奈川	区域における見守りのしくみ、ネットワークの構築について (※)
西	<ul style="list-style-type: none"> ・区域課題の集約、課題解決のための体系、取組の確認 ・見守りによるつながりづくり「地域で見守りガイドブック」の作成について
中	居場所の良さを知らせよう～効果的な周知・情報提供の方法～
南	民間事業者との連携会議及び地域ケア会議サポート事業について
港南	港南区認知症高齢者の見守りについて
保土ケ谷	地域包括ケアシステム構築における多職種連携に向けた関係づくり
旭	認知症をみんなで支えるまちを目指した取組成果と今後の方向性
磯子	見守りの視点を広げる。活動をつなげる
金沢	独居高齢者（高齢のみ世帯含む）の支援～地域・関係機関でできること～
港北	地域における高齢者の見守りについて
緑	高齢者の社会参加～地域とのつながりづくり～ (※)
青葉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステム構築の取組についての報告と共有 ・自分たちが地域を支えるためにできそうなこと
都筑	転入高齢者の孤立を予防するための情報提供媒体について
戸塚	地域と関係機関の連携・つながりづくりを認知症支援を通して考える
栄	地域で孤立しがちな高齢者の支援について ～専門職の見守りが必要な方の支援～
泉	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度下半期地域ケア会議の振り返り及び今年度第2回区レベル地域ケア会議のテーマ設定について ・外出支援でつながりづくり～社会参加を目指した外出支援について (※)
瀬谷	見守りツールの活用について～その後の「効果」を知る

(※) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止もしくは令和2年度に開催延期